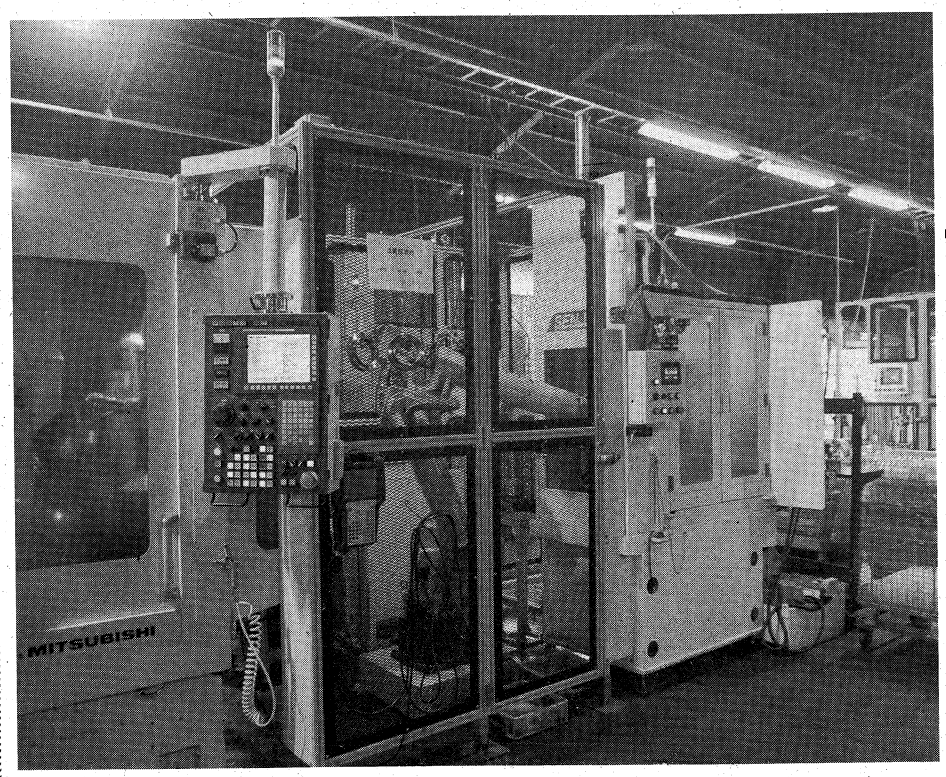
前田鉄工・七宝金型など

新事業創出　愛知県の支援策活用で成果

愛知県は自動車サプライヤーの新事業創出を支援するプログラム「愛知自動車サプライヤーBUSINESS CREATION」を実施している。2023年度は8社が参画した。専門家のハンズオン（伴走型）支援により、課題の明確化や自社の強み分析、参入を想定する市場や製品の検討を行った。定期的な面談なども通じて事業の〝解像度〟を高めた。24年3月に開いた成果発表会では、各社が検討してきた事業計画の途中経過を報告した。



前田鉄工所は歯車やシャフト製造の知見を生かして異業種参入を目指す（同社工場）

プログラムに参加した前田鉄工所（名古屋市中川区、前田基樹社長）は、現在主力とする自動車のトランスミッション（変速機）部品やエンジン部品の縮小を懸念し、新規事業を計画する。歯車やシャフト製造の知見を生かした異業種への参入と、自動車向けの新たな部品獲得の二つの軸を検討。前田社長は「周辺技術を持つ企業や新たな領域の知見がある企業などとパートナーを組むことを検討する」と話す。

七宝金型工業（愛知県津島市、松岡寛高社長）は、15年に導入した金属3Dプリンターを有効活用し、大型の加工対象物（ワーク）を加工機などに水平に設置する「水平出し」の工数を削減できる治具を開発した。自社の工場で使用したところ「段取り工数を約9割削減できた」（野場純一研究開発課課長）。今後はマーケティング活動を進めながら、同業の金型メーカーや大型のワークを扱う企業に販売する。

高精度な転造加工でネジを製作する名友産商（同小牧市、南竜市社長）は、ガス器具の部品を得意とするアール・ティ・エンジニアリング（同豊田市）と共同で、熱エネルギーの課題を解決する製品を検討。24年中にも試作の開始を目指す。

愛知県は同プログラムを24年度も実施する予定。県の担当者は「最近カーボンニュートラルが一層注目されており、電動化で影響を受ける企業も多い。永続的に存続するため新規事業は必須」と狙いを語る。